

リテラシー研究会

Literacy Seminary

I. リテラシー研究会の概要

ICU リテラシー研究会は、元国際基督教大学教授、教育研究所顧問の千葉果弘先生を中心に、アドバイザーを含めた学生によって運営されてきた研究会である。「識字」「ノン・フォーマル教育」「開発と教育」などのテーマで毎週授業後の時間帯に例会を持ち、その運営は千葉果弘先生退任後も継続している。例会では、学内外の専門家や卒業生による講演、卒業論文や修士論文の研究発表、読書会などを行っている。会場場所は主に ICU 教育研究棟 357 号室である。1996 年に『なぜ識字か：発展途上国の現状』（千葉果弘監修）初版が教育研究所から発行されたが、この書籍の元になったのもリテラシー研究会のメンバーによる活動であった。この会の特徴は、会が千葉果弘先生を核としたものであると同時に、学内学外の学生や研究者、教育開発の実践者に開かれたものであること、巣立った卒業生が現場で活躍しており、その現場と現役学生との交流、現場からのフィードバックが年々活発になっていることである。

II. 活動内容

2007 年度のリテラシー研究会は、岡野英之（社会科学研究所助手）、堀尾祥子（大学院 1 年）らを中心に 25 回の例会を行った。また集中講義とカンボジアのスタディーツアーおよびツアー報告会を実施した。例会のうち 2 回は教育研究所の公開講座との共催である。

1. 例会などの活動記録 (2007.4 ~ 2008.3)

日 時	タイトル	発表者
April 23, 2007	Partnerships for Development Success: the Case of UNICEF, CARE, and Bilingual Education in Cambodia	Dr. Walter P. Dawson(教育研究所所員)
May 28, 2007	文明の発展と文字の役割：識字教育の歴史的展開	千葉果弘(教育研究所顧問)
June 4, 2007	カンボジアにおける宗教—上座部仏教	吉田信行(元 ICU 事務局長)
June 11, 2007	カンボジアの基礎情報(地理、民族、言語、宗教、政府、人口、歴史)	森川愛子・堀尾祥子(院 1 年)
July 2, 2007	夏休みの活動についての話し合い	リーダー 堀尾祥子(院 1 年)
July 12, 2007	*カンボジアの教育史、カンボジアの経済	関口嶺(学部 4 年)
July 17, 2007	*カンボジアの初等教育	堀尾祥子(院 1 年)
July 30, 2007	*カンボジアの中・高等教育	中島実優(学部 1 年)

Aug. 7, 2007	*カンボジアの識字、生涯教育	森川愛子(院1年)
Aug. 14, 2007	*カンボジアの幼少教育	井瀬俊二(学部4年)
Sept. 11, 2007	カンボジア寺子屋プロジェクト(『なぜ識字か』をもとに)	北村昭二(学部3年)
Sept. 17, 2007	ACCU 訪問の報告	根本明英(学部4年)
Sept. 25, 2007 IERS 公開講座	カンボジア 都市の復興の状況 土木工学の観点から	上原義昭(上下水道部門 技術士)
Oct. 5, 2007	日本ユネスコ協会連盟世界寺子屋運動	堀尾祥子・折原涼太(院1年、学部1年)
Oct. 12, 2007	*カンボジア王国教育・青年・スポーツ省ノン・フォーマル教育局の概要と活動内容について [上記ノン・フォーマル教育局に対する質問項目の作成]	森川愛子(院2年)
Oct. 19, 2007	カンボジアにおける SVA の活動内容 [SVA に対する質問項目の作成]	井瀬俊二(学部3年)
Oct. 26, 2007	シエラレオネの状況について - 現地報告	岡野英之(社会科学研究所助手)
Nov. 2, 2007	ACCU が支援しているカンボジア NGO(CWDA)の活動 [CWDA に対する質問項目の作成]	根本明英(学部4年)
Nov. 7, 2007 IERS 公開講座	世界寺子屋運動という国際教育協力のかたち 寺尾明人(日本ユネスコ協会連盟事務局長)	寺尾明人(日本ユネスコ協会連盟事務局長)
Nov. 16, 2007	カンボジア内戦、ポル・ポト政権の歴史	堀尾祥子(院1年)
Dec. 10, 2007	NFUAJ、チョンクニア村の寺子屋で学んだことの報告	堀尾祥子(院1年)
Dec. 17, 2007	CWDA 訪問(GLC や CIC への訪問)から学んだことの報告	根本明英(学部4年)
Jan. 31, 2008	途上国の NGO に飛び込む - インド・エチオピア・ルワンダでの通算5年間 -	田中真奈(99年卒業生)
Feb. 4, 2008	子どもの成長における昔話の現代的役割	根本明英(学部4年)
Feb. 7, 2008	途上国の NGO に飛び込む - ジェンダーと HIV/AIDS ワークショップの実演	田中真奈(99年卒業)

タイトルの*印はカンボジアの教育・EFA 関連の報告書等資料の読書会であることを示す。

2. 夏期集中講義

2007年7月2日(月)より6日(金)の間、午後1時から5時まで、教育研究棟347号室で千葉果弘先生による夏期集中講義が行われた。国際的視野から見た教育協力に関心をもつ学部1年生から大学院博士前期課程2年生までを対象に行われたもので、毎回7,8名が参加した。講義のテーマは「教育における国際協力の歴史と展開」である。

3. カンボジアスタディーツアー

2007年11月25日(日)から12月3日(月)まで9日間の日程でリテラシー研究会有志10名がカンボジアスタディーツアーを行った。目的は、『なぜ識字か』で取り上げられているシェムリアップ州チョンクニア村の水上識字教室を視察し現状を調査することである。その他にノン・フォーマル教育を行っているNGOや教育・青年・スポーツ省を訪問してカンボジアの識字教育について知見を深めるとともに、カンボジア人大学生と交流することも目的とした。スタディーツアーの準備として、カンボジアの教育事情特にEFA関連の報告書等を学習し、教育研究所と共催で2回の公開講座を企画した。また訪問先のNGOであるACCU(ユネスコ・アジア文化センター)の日本国内事務所を訪問、同じく訪問先のシャンティ国際ボランティア会で絵本事業のボランティアに参加した。大学院生(教育学研究科堀尾祥子・森川愛子両名)を中心に自身の手で企画、準備のすべてを行い、訪問先の情報入手、日程調整、訪問地での車や宿の手配はリテラシー研究会のOB金澤大介氏(院O2)の強力な助力を得た。帰国後は、報告会と写真展示を行い、報告書を作成した。現地訪問先、帰国後の報告会等の日程は以下の通りである。

1) 訪問先

- a. カンボジア王国教育青年スポーツ省ノン・フォーマル教育局 [Tauch Choeun 副局長(当時)および金澤大介氏(JICA カンボジア高等教育アドバイザー、リテラシー研究会OB)を訪問]
- b. 日本ユネスコ協会連盟の寺子屋識字教室(NFUAJ) [シェムリアップ州チョンクニア村、コックスロックス村を訪問]
- c. シャンティ国際ボランティア会 [プノンペン事務所訪問およびスラムにおける図書館事業を見学]
- d. カンボジア女性開発機構(Cambodian Women Development Agency) [プノンペン近郊の2つの村のコミュニティ・ラーニングセンター(CLC)およびコミュニティ・インフォメーションセンター(CIC)を訪問]
- e. ビルド・ブライツ大学(Build Bright University:BBU) [学生の企画による学習・交流会およびグループ討論。BBU生18名、ICU生8名、BBU副校長スリム・シブホン氏、NFUAJのスタッフ池本まりこ氏他が参加]
- f. NGO ALC 青山日本語学校(Asia Language& Culture Exchange Association:NGO ALC Aoyama Japanese Language School) [学校を訪問、授業見学と交流会]
- g. カンボジア日本人材開発センター (Cambodia-Japan Cooperation Center :CJCC) [王立プノンペン大学の学生を対象とした日本語コースの授業に参加]

2) 報告会

- a. 報告会:2008年1月9日(水曜日) 19時~21時 本館367号室
メンバー10名、一般参加者10名、日本ユネスコ協会連盟から2名、計22名の参加者
- b. 写真展示:2008年2月 本館2階ラウンジ
スタディーツアーで撮影した写真のうち、現地の識字教育活動の状況をよく伝えるもの、印象的なシーンを展示。

なおJICA(独立行政法人国際協力機構)ホームページ「地球ひろば」の「トピックス」に「ICUリテラシー研究会によるカンボジア日本人材開発センター日本語コースの授業参加」について報告書を執筆した。また、今回の訪問についてカンボジア日本人材開発センターのホームページにも記事が掲載された。

4. 情報交換

リテラシー研究会の活動として、情報交換も重要な機能を果たしている。まず、現役生とOBを含むメンバーのためにメーリングリストが開設されており、例会の日程とテーマおよび報告を学内のリテラシー研究会の活動案内として配信している。国内外の卒業生からの活動報告、教育と開発関係のイベント情報・求人情報などが流され、情報交換の場を提供している。

また、リテラシー研究会ホームページも、ICUのsubsite内に開設されており、学内の例会案内と報告、過去から現在までのすべての活動記録、千葉泉弘先生の「リテ研ネット講座 識字問題研究入門」が掲載されている(<http://subsite.icu.ac.jp/org/liteken/>)。ただし、運営上の理由から将来はICUから独立することも検討している。

リテラシー研究会の情報交換は、情報通信技術を活用した上記の活動のほかに研究会OB・OGによる講演会や例会での発表、例会後の懇親会によるところが非常に大きい。また千葉先生を囲む形で定期的に行われる集まりも人的なネットワークを支える重要な機会となっている。これらの機会を基盤として上記のメーリングリストやホームページも活発に活用されうると言えるだろう。

III. 今後の活動計画と課題

リテラシー研究会の今後の活動は、現役生による研究例会活動を中心にしつつも、多様な形態で発展させていく予定である。以下は、2006年度(2006年12月2日)にリテラシー研究会で話し合われた内容をもとに、今年度の活動を通して今後を展望し、活動計画としてまとめてみたものである。メンバーの学びの場となること、メンバー同士の情報と人的な交流の場となること、識字問題に関する発信の場となることの3つの側面を含むと思われる。

- ①現役生による研究例会活動(講演、公開講座を含む)を行う。
- ②卒業生を含む学内外の関係者や同じ関心を持つ人々との連携と交流を行う。
- ③ホームページを充実して情報交流に役立てるとともに、識字問題についての研究成果や実践について発信する。
- ④リテラシー研究会として識字プロジェクトの可能性をさぐる。
- ⑤「共生のための教育」(ICU COE 編集)日本語版を出版する。
- ⑥『なぜ識字か』続編を編集出版する。
- ⑦スタディーツアーを計画、実施する。

学生、社会人という身分や大学の内外という枠を超えて識字問題の解決と社会の発展に貢献できるよう、その中でメンバー個人の成長と活躍が実現されるよう、今後の豊かな活動を期待したい。最後に「リテ研の今後を考える会」(2006年12月2日)議事録より千葉泉弘先生の言葉を引用して締めくくりたい。「リテ研は、卒業生と現役生が集まる場であり、無理なく、特定の人に負担がかからない形で、楽しく交流できるネットワークとなってほしい」。

[カンボジアスタディーツアー 関連機関 URL]

1. (社)日本ユネスコ協会連盟(National Federation of UNESCO Associations in JAPAN: NFUAJ) <http://www.unesco.or.jp/>
2. (社)シャンティ国際ボランティア会(Shanti Volunteer Association: SVA) <http://www.jca.apc.org/sva/english/>
3. (財)ユネスコ・アジア文化センター (Asia/Pacific Cultural Center for UNESCO: ACCU) <http://www.accu.or.jp/jp/index.shtml>
4. カンボジア女性開発機構(Cambodian Women Development Agency) <http://www.bigpond.com.kh/users/cwda/>
5. ビルド・ブライト大学(Build Bright University:BBU) <http://www.bbu.edu.kh/>
6. カンボジア日本人材開発センター (Cambodia-Japan Cooperation Center: CJCC) <http://www.cjcc.edu.kh/>
7. JICA 地球ひろば <http://www.jica.go.jp/hiroba/>

[資料]

千葉泉弘監修『なぜ識字か：発展途上国の現状』国際基督教大学教育研究所・リテラシー研究会 初版 1996年 第二版
2002年

[リテラシー研究会 HP]

<http://subsite.icu.ac.jp/org/liteken/>

鈴木 庸子

SUZUKI, Yoko